

第5回 即興型ディベート基礎講座

講義『環境と国際問題』Report

- 日 時 2014年10月24日（土）
- 場 所 本校4F会議室
- 指 導 者 中川智皓先生、社会人4名、九州大学生4名
- 参 加 者 生徒46名（男子17名／女子29名）
- 準 備 物 スクリーン、PC（1台）、プロジェクター（1台）、スピーカー
- 講 義 環境と国際問題（講師：齋藤 美穂子 先生）
- 実 践 演 習 ①Developing countries should take the same responsibilities as developed countries on global warming.
②Economic growth should be prioritized than environmental protection.

1	<p>中川先生より 齋藤先生のプロフィール・ディベート歴紹介</p>	
2	<p>齋藤先生より スイスのジュネーブからスカイプを使って7時間の時差があるにもかかわらず、スイス時間の夜中1時半から本校生のために特別講義をしていただいた。 スイスには国際赤十字の本部など20以上の国際機関があり、日本政府の立場で専門調査員とし、会議に出席し毎日色んな国の人と話をしている。大学生活で培ったディベートが現在の仕事でとても役立っている。 これから世界に出たときに役立つよう、頑張りましょう。</p> <p>齋藤先生自作の国連紹介ビデオ</p> <p>国家間の友好関係、国際関係の問題を解決するため毎日会議を行っている。1945年10月24日に発足し、加盟国は51カ国から現在は193カ国にまで増加。どの国にも平等に発言権がある。</p>	 

国連の環境問題への取組（パワーポイント）

今、国連における環境問題への取り組みの1つに気候変動への取り組みがある。気候変動問題とは地球温暖化の問題でもある。二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴い、地球の気温が上昇している。そのため北極南極の氷が解け海面が上昇し、太平洋の島では家に水（海水）が入ってきたり、島が沈む危機に直面している。気温の上昇を防ぐためには温室効果ガスの削減が必要であるが、依然として増加傾向にある。

－温室効果ガスはなぜ増えるのか？－

電力を作るための発電所、工場、自動車からの排気ガス、森林伐採等が主な理由である。人々の暮らしが便利になればなるほど、温室効果ガスは増えてしまう。2009年時点、中国がアメリカを抜いて、世界一の二酸化炭素排出国になっている。もともと人口が多い中国の暮らしが豊かになってきており、自動車、工場が増え、家を建てたりライフスタイルの変化が二酸化炭素の排出を増やしている。先進国が排出量の上位を占めているが、これから発展途上国の生活が豊かになるともっと二酸化炭素の排出が増えることが予想されている。

－では、どのように解決できるのか？－

1992年 環境と開発に関する国際連合会議

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議

2012年 国連持続可能な開発会議

で議論されているが、「温室効果対策のためにはお金と技術が必要であるが、誰が出すのか」、「このまま排出を続けたら地球はもたない」等まだ国連でも議論中である。

－どう思うか？－

『日本語でグループディスカッション』

生徒を3つのグループに分け、資料配布。資料は①A国（先進国）②B国（途上国）③C国（途上国・太平洋の島国）の3種類。それぞれがその国の代表として国連の気候変動会議に出



	<p>席し、二酸化炭素排出量の削減の提案にどのような立場をとるか。資料にはその国の特徴が書かれていて、それを踏まえて各グループで話し合い、全体でそれぞれのグループがどのような意見を持ったか発表。</p>	
3	<p>英語でディベート① Developing countries should take the same responsibilities as developed countries on global warming.</p> <p>テーマが難しいほど、相手が何を言っているのか、しっかり理解することが大切である。分からなかつたら割り込んで聞くことが大切である。また AREA を意識しなければならない。</p> <p>英語でディベート② Economic growth should be prioritized than environmental protection.</p> <p>ヒントとなるスピーチを聞いて、そこからヒントを得てディベートを行う。</p>	
4	<p>ディベート 3つのポイント 《斎藤先生より》</p> <p>1 相手の立場になって考えて発言すること 常に相手の立場になって考えると、どう主張をすればよいか分かるようになる。そのことを普段から心がけることが大切である。</p> <p>2 自分の意見を自信を持って明確に話すこと 自信がなくても、前を見て、相手の目を見て話すと自信があるように見える。これもディベートをする上で大切なポイントである。</p> <p>3 自分の意見を持つこと 普段からニュースや新聞を見て自分なりの感想や考えを持つようにすることも練習になる。</p> <p>⇒相手の立場になって考え方を明確に相手に伝えよう！</p> <p>《山本副校長より》</p> <p>斎藤先生へ謝辞</p>	  

《生徒感想》

- ・環境問題を解決するには、国境を越えて協力しなければならぬので、改めてディベートの大切さについて考えることができた。立場が違う国同士のディベートでは、経済や政治のことも頭に入れて双方が納得するまで議論をしていかなければならぬので難しい問題だと思う。私は将来、海外で仕事をしたいと考えているので、実際に海外で日本と世界の架け橋として仕事をされている方のお話を聞くことができ、より一層海外についての興味が深まった。次回から難易度の高いディベートでも主張を強められるように身近な問題についても疑問や改善点を考え自分の意志を表現できるようになりたい。(R.T.)
- ・今回のディベートでは議題が難しく、日本語で考えることも大変なのに、知らない単語ばかりでとても難しかった、自分の言いたいことが全然伝わらないとこんなにももどかしいんだと改めて感じました。もっと英語を勉強していきたいです。また2ラウンド目でディベートのヒントを英語で話してくださったが、全く分からなかつたのがショックだった。しかし、初めての海外からの講師で、少し緊張したが、とても楽しく、理解を深められたと感じることができた。(H.T.)
- ・スクリーン越しの部屋の薄暗さからスイスと日本との時差を感じることができたり、特別に作ってくださった動画で国連の内部の映像を見れたり、普段はできない貴重な経験をさせていただいた。ディベートの内容が私たちの日常的に感じられるものから国際的になり、とても難しかった。単語の難易度もあがり、相手が何を言っているかわからず、反論がままならないのが今の現状だった。語彙力を高めたい。(A.I.)
- ・今回のディベートの議題はニュースではよく取り上げられているが、私は実際に環境への危機を感じたことがなかったので、その点でとても難しく感じた。環境についての知識も乏しく、深い意見を述べられなかつたのが悔しかった。しかし、ディベートを通して「理論的に物事を考え、意見する」ということができたように思う。高校生の私がほとんど関わることができない「国連」の方の講義を受けることができ、とても刺激になった。(N.E.)
- ・僕はWHOなど世界の機関に興味があるので、齋藤先生が済々聴生のために作ってくださった動画を見て、世界はすごいなあと思った。今回の講義で自分の知らなかつた環境問題について知ることができ、自分の生活を見直そうと思ったのと同時に、新しい知識を身につけることができ、よかったです。今回齋藤先生に僕たちの班の審判をしていただき、終わった後に欠点や改善すべき点などを教えたいいただいた。本当にためになった。またベストディベーターに選ばれ、教えられたことを守り、実行できてよかったです。これからも頑張りたい。(Y.H.)